

## 中国農村僻地<sup>1</sup>における貧困問題研究 —潜在能力の発揮によって貧困脱出—

李小春

### 要旨

中国僻地における貧困開発によりよい開発援助のあり方を提案するために、貧困の原因を深く広く分析する必要がある。センの潜在能力理論の下で、これまでの調査データを踏まえて、中国貧困県白水県—李家源村の調査を通じて、様々な原因の中では家庭・個人の欠陥・精神素質の欠如による貧困が今日貧困の大きな特徴であることが明らかである。

開発型援助の成果を満たすには、①貧困人口相対的に集中②貧困人口の自立的な発展能力に依存するという二つの条件が必要である。現在の農村人口は大部分、この二つの条件には適していない。②どんな援助政策でも、農民たちに自立的に積極的に貧困を脱出する体制を作るものが評価されるべきだが、今までの貧困開発理論及び実施プロセスを分析してみると、貧困対策は貧困者自身の精神素質向上による経済成長及び経済発展における役割を無視してきたことが明らかである。貧困対策にしても、開発援助にしても、ある程度にもっとも基本的な事実を背いている。人間自身が生産力の決定的な要素で、経済発展及び経済の成長が主に人間自身の素質の向上によるものである。③従来の途上国では自然条件や経営構造を中心とする客体的要因に関する物が主流であり、主体的要因に関する蓄積が数少ない。

中国僻地における貧困開発によりよい開発のあり方を提案するために、中国僻地に置ける農村での長時間にわたるフィールドワークを通じて、中国僻地における貧困問題の是正に向けて、現実像をしっかりと掴み、論理的に貧困の原因及び貧困のメカニズムを究明することによって中国貧困県—白水県を事例として農民の意識や考え方とどのような関連しているかを明らかにし、それに人間の素質向上による貧困脱出可能を立証する。

キーワード：貧困・潜在能力・教育

### I. 問題提起

中国の成長には著しいものがあるが、一方で、いわゆる中国脅威論といわれる見方も広がっている。たとえば、次のようである。

(このまま中国が成長していけば、なにしろ人口13億の巨大な国にだけに、その動

向・政策が世界、とりわけ周辺諸国に与える影響は計り知れないものがある。日本にはこの中国经济発展の渦巻きに巻き込まれてしまうのではないかという漠然とした不安感がある。中国の成長が日本の産業空洞化をますます促進させ、失業を増やし続けるのではないかという恐れ、さらに、製造技術のみならず、研究開発さえも中国に移

転してしまうのではないかという恐怖。)

しかし、一步下がってみれば、成長の裏側には光にさえぎられた広大な暗い闇が広がっている。様々の意見や実態分析を通じて中国の驚くほどの発展が知ることができるが、その一方で無視できない影の部分(貧困問題、格差問題)も心に伝わってくる。

しかし中国経済持続高速成長及び政府主導型貧困開発の下で、貧困人口の解消に大きな成果を上げたことも事実である。絶対貧困人口は1978年の2.5億から2007年の1479万人に、低収入人口は2000年6213万人から2007年2841万人に減少している<sup>2</sup>。そのうち1980年代中期スタートした、

農村資源を利用して農村の基礎施設を改善する開発型援助という式が貧困農家の労働及び発展能力に合わせる形で農村貧困の解消に重要な役割を果たしたが、1997年以来、農民の収入がずっと低速成長を見せつつ、都市住民の五分の一までに達成してないのである。農民収入増加が苦しい時期に入っているにもかかわらず、20世紀80年代の都市部と農村部の格差が1.8:1から4.2:1まで拡大しつつある<sup>3</sup>。特に貧困地域における農民の生活水準の向上が依然、遅いスピードを見せている。

現状では、依然として中国内陸地域、特に少数民族地区と中山間地域の農村の貧困問題が深刻であり、近年、中国政府はもちろんのこと、世界銀行など海外からの中国貧困削減援助計画の大部分はこうした地域に向けられている。また、国際協力機構(JICA)の対中強力や国際協力銀行(JBIC)の円借款の対象事業についても内陸へのシフトが見られる。

2009年全国貧困人口統計<sup>4</sup>によると中国3.9億労働力人口のうち、高卒及び高卒以上は3.8%、大専及び大専以上は、ただ、1.1%、

中学校は、52.2%、小学校以下は34.1%(そのうち、文盲、半文盲6.9%)農業技術者の数量、戸籍差別等の原因で、一気に76.8万人までに減している。そのうち、農業第一線の農業技術者がもっと少なく、平均に万人農業労働者に21人の割合で、1万人の専門技術者2800人を保有する都市部に対して差が大きい。中国農村における高素質の労働力が少ない。11.6%高卒及び高卒以上の労働力のうちの大部分は、都市部で商業経営か就職かなどで、農村で働く人が少ないのが現状である。

統計<sup>5</sup>によると二億以上の35歳以下の農村青年労働青年の労働力のうち、農業科学技術訓練を受けたことがあるのは9.1%の労働力にすぎないが。農村科学技術知識を知っているのが5%しか達してないことである。このような知識レベルでは、現代農業技術を身につけることはできない。現代農業発展及び農業産業構造調整に適応することができないと思われる。

一方、われわれが直面する大きな問題は貧困層の持つ資源<sup>6</sup>が活用されない現実である。貧困層が資源を持っていても活用されにくい背景には、少なくとも、三つの直接的な理由がある。第一に、「資源」の存在自体が認識されない。第二に潜在している「資源」を活用するアイデアがない。第三に、今まで、生活に満足している<sup>7</sup>。

2006年から2009年まで、筆者が内陸にある陝西省山区県—白水県に対する長期フィールドワークを行い、白水県の貧困原因およびメカニズムを明らかにした<sup>8</sup>。村によって貧困原因がそれぞれであるが、共通点がある。その結果は下記である。

1. 交通・情報・物流システムによる農産物の流通難。
2. 農業基礎施設が非常に粗末。

3. 農民思想が古く保守、現状に満足、新たな思想を受けにくい。科学技術を利用する意識及び能力が制限され、生産技術遅れ、規模生産性低下、受教育レベルが低く、高校生が 15% 中学生が 40% 小学生が 25% 文盲が 20%。
4. 村に残されたのは老人、病人、障害者及び子供が主で、労働力の殆どは出稼ぎに行っている。
5. 潜在能力の欠如による様々な貧困（愚かによる貧困、病気による貧困、災難による貧困、進学による貧困、農民精神荒廃による貧困）は悪循環になっている。
6. 金融問題。

何であれ、人間の素質<sup>9</sup>による貧困が顕著であることに注目すべきである。潜在能力の発揮による貧困脱出の鍵は貧困者自身である。

以上の問題意識で、2010年6月7日中国陝西省白水県に現地調査を行い、農民潜在能力の発揮による貧困脱出が可能になることを立証する。

## II. 中国陝西省白水県の概況

### 1. 特殊な地貌

白水県は北緯 35°C 東経 109°C の間、中国陝西関中東部、渭河盆地の北部、橋山、黄龍山の南、洛河の近くにある。面積が 986 平方キロメートル、人口が 27 万人である。白水から蒲城県まで 25km、黄龍県まで 45km、洛河県まで 105km、宜君県まで 80km、澄城県まで 45km、銅川市まで 60km 渭南行政区まで 83km、省都西安まで 165km、首都北京まで河南經由 1368km、山西經由

1273km で、渭北黄土台原と陝北高原の移行地帯にある。

地勢は西北高、東南低、東南洛河出口海拔 445m～西北史家塔 1543.3m で間の差が 1093.3m である。殆どの農地が 650--1000 m の高原の間にある。境内には大小川が 14 本あり、そのうち、洛河、白水河という二本の河が一番大きいのである。白水県は 1982 年、陝西省に山区県として認定された。2000 年貧困県として認定された<sup>10</sup>。渭南地域にある唯一の山区県である。国家扶助開発重点県に属し、全県総面積が 986 平方メートルで、国土面積の万分の一で、白水県は、7 鎮 7 郷を管轄し、総人口が 30 万人である。

白水県は資源が豊かで、中国全土の唯一林檎生産の最適な七つの条件に適している県である。果樹園面積が 52 万ム、緑色食品認証面積が 32 万ムで、中国林檎 20 強として認定されている。白水林檎が中国のブランド食品として業界カタログに掲載されている。

それに、白水県は陝西省の石炭生産の重要な県の一つである。石炭の埋蔵量が 5.9 億トンで、年生産高が 400 万トンである。2008 年、全県生産総高が 22.82 億元に達し、2006 年に対して 6.49 億元増加、年平均成長率が 14.7% である。全社会固定資産投資が 8.95 億元で、2006 年の 2.5 倍で年平均成長率が 60% で、財政収入が 5500 万元で、2006 年に対して、2370 万元増加した。平均成長率が 32.6% である。農民の純収入が 2466 元に達し、2006 年に対して 849 元増加、年成長率が 23.5 である<sup>11</sup>。

2010 年 3 月 7 日白水県第十六回人民代表大会第四回会議白水県人民政府県長の政府工作報告によって表 1 にした。

表 1 2009 年白水県の経済データ

2009 年	GDP (億元)	地方政府 財政収入 (万元)	社会固定 資産投資 (億元)	社会消費品 販売総額 (億元)	城鎮居民 一人当たり可処分 収入 (元)	農民一人当 たり純収入 (元)
	28.36	7500	16.22	9	13086	3210
成長率 (%)	14.5	36.4	81.3	21	25.1	30.2

## 2. 農業、農村経済及び県域経済

白水県は陝西省渭南地域唯一の山区県で、農業及び農村地域の発展が経済発展の中では重要な部分である。全県約 4 分の 3 以上の人口は直接に農業生産に従事し、農業生産高が国民生産高の 50%以上を示している。

経済の発展のプロセスからみれば、殆どの先進国の経済の発展のプロセスの中では農業を離れ土地を離れ…という特徴があるが、農業は立ち遅れという意味がしない。農業は工業の基礎であり、国民生活にはなくてはならない主な産業である。特に発展途上国においては最も重要な役割を果たしている。県域経済を発展する際、国家政策と実際の状況に合わせて、地域優位性を発揮し、農業の発展を促進する。農業経済の発展プロセスをみれば、下記のいくつかの段階が分けられている。伝統農業段階・多種経営段階・現代化商業農業段階・生態化農業段階。

白水県の農業の発展からみれば、部分的な伝統農業から商業化農業への転換及び共存、生態化農業へ移行し始める。現在、白水県伝統農業が依然、一定の比重を示している。主に食糧生産の面である。

白水県の自給自足の伝統的な農業段階は主に 80 年代中期以前で、この段階では農民の労働工具が改善されたが、伝統農業の影から脱出することが出来なかった。農業機械化・肥料、農薬・灌漑が各郷・鎮まで使

われているが、全体的には、牛で耕す、人力収穫を主とした伝統的なやり方である。80 年代中後期、農民達は小麦、玉蜀黍、さつま芋、粟類、高粱、大豆等の食糧以外に、火で乾かした葉煙草、林檎、綿花、油菜、西瓜、サンザシ、棗、胡桃、栗、山椒等の経済作物及び薬材を植え始め、同時に牧畜業（牛、羊、豚、鶏等）をし始め、山々の中には天然な牧場が生まれた。

白水県の林檎は悠久な歴史を持っている。50 年代中国政府の「保護と回復を主に、積極的に山果樹を発展する」という呼びかけに応じて、スタートした、その時の果樹園が 18 個。面積が 354.6 ムーしかなかった。60 年代、70 年代の発展につれて、白水県の林檎面積が 2 万ムーに達成し、80 年代、渭北百万優質林檎基地県の一つとして知られるようになった。90 年代初期、増加し始め、白水県の林檎面積が 1992 年の 23 万ムから 1996 年の 40 万ムまで大幅に増加し、一人当たり 1.7 ムーで全国の先頭に立つようになった。1995 年 4 月「中国林檎の故郷」という光栄称号を獲得した<sup>12</sup>。

2009 年城鎮居民平均一人当たり可処分所得が 13086 元、一人当たり純収入 3210 元<sup>13</sup>まで上昇してきた。市場経済は白水人の福音と言えるだろう。しかし、市場経済の浸透状況によって、貧困の差が益々広がっていくのが現地調査で明らかになった。

## 3. 白水県の格差問題・貧困問題

白水県は大きな県ではないが、石炭と林檎で、広く知られている。有名だと言っても、貧困問題は、依然、深刻である。

改革開放後、30年以上にわたる白水県の人々は、昔に比べれば、確かに豊かになってきたが、人々は豊かな生活を追求する意識、生活の質向上する意識、家庭経営意識、現状を改善する意識が随分変わってきた。市場経済の浸透の状況と人々の教育レベルによって、進んでいる鎮・郷と立ち遅れている鎮・郷がある

2006年から2010までの中国陝西省白水県・雲南省施甸県の現地調査を通じて、政府が主体としての貧困撲滅事業に対する力を益々注いでいることが実感させられ、農村貧困地域によって、各地方政府がそれぞれ、様々な貧困対策を打ち出し、貧困解消に努めていることも事実である。政策・自然環境・農民精神によって、それぞれ効果には差があるが、貧困問題の深刻さを各政府が認識していること疑いない。白水県政府の貧困援助事務室の方々との交流を通じて、雲南省施甸県政府の方々の考え方と比べると確かに差があるが、2006年の時の

考え方と比べると大きな進歩である

2010年の今日においても白水県の農村経済の発展は依然アンバランスで、西北部、北部、東北部の発展が非常に立ち遅れている。政府主導開発型・世界銀行プロジェクト・社会援助によって、農民の生活状況、特に住宅・水の状況・交通状況・電気等の面がだいぶ改善されつつあるが、一旦貧困から脱出した人々が家庭の原因、天災の原因…等によって、再び貧困に舞い戻る現象がよく見かける。近代化の中、市場経済進化の中では県内、郷内、村内における格差問題も益々深刻になってきていることに注目すべきである。山の奥における貧困問題が依然深刻である。

2009年3月、筆者と白水県貧困援助事務所の人々と一緒に、下記の村を回った。この調査は、県政府が一部分の典型的な貧困村に対して、貧困実態及びどれだけの貧困者を移住する必要なのかについて行った調査である。

調査対象：14郷鎮、44村、7651戸、30577人

表2 調査村の基本データー1

	出稼ぎ	在学生	商人	移住者	在住者
(人)	4340	5966	712	427	19980
割合(%)	14	20	2	1.3	40

	耕地面積	平地	坂地	水地	林地	経済林
(ム)	67499	42588	16743	8168	18732	13239
一人当たり	2.2	1.4	0.5	0.3	0.6	0.4
在住者一人当たり	3.4	2.1	0.8	0.4	0.9	1.5

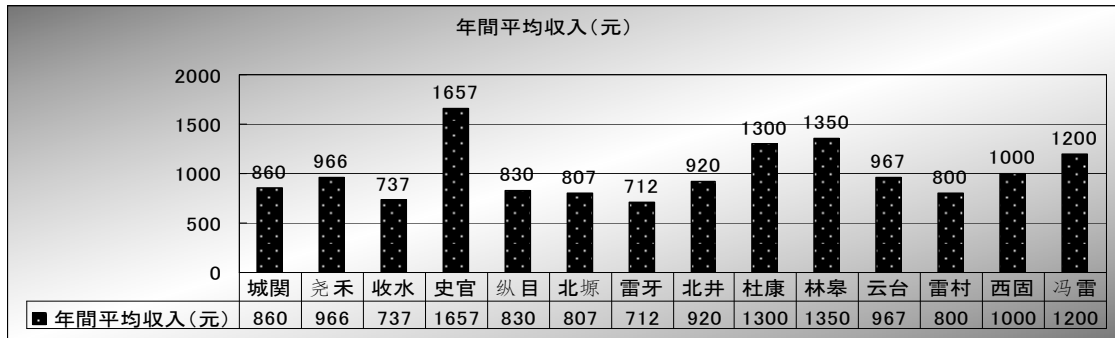
注：①水地—灌溉可能な土地

②坂地—山地

上記の村の殆どは郷鎮から 20 キロ以上遠くはなれ、山の奥にある。

下記は移住調査村の年間一人当たり純収入のグラフである

図 1 各調査村の一人当たりの平均年間純収入  
各郷・鎮の貧困村の一人当たりの平均年間純収入



出所：2009年3月白水扶助事務所移住調査データに基づいて筆者作成

注：杜康鎮 出稼ぎ(29万) 商人(9万) 林檎(7万) 運搬業(20万) ビニールハウス(15万)

上記のグラフから、2009年の白水県全体の平均農民純収入 3210 元にくらべ非常に低いことが明らかである。どんな地域でも、貧困問題があるにもかかわらず、貧困村の中でも貧困度合いがばらついていることを示している。所得は貧困評価の中の一つの指標であるため、所得だけで、貧困を立証することができないのであるが、白水県の発展がアンバランスであることが一目瞭然である。貧困の多様性の観点から見れば、貧困の深刻さが上記のグラフより深刻である。

上記の村の殆どは、自給自足の小農経済で、生産規模が小さく、商品率が低く、経営利益が高くなく、農業集約化産業化の発展が立ち遅れている。経済収入は、主に果樹園、小麦、玉蜀黍、豆類、養殖業及び出稼ぎである。土地が主に山地、坂地、灌漑できない畑で、有効利用されていないことが原状である。農業水利施設が粗末で、旱魃、洪水、雪、風、雹害、砂塵嵐等の災害を受けやいのが現状である。そのため、収入が

非常に不安定である。

2009年3月の県政府の移民開発を実施する前の実態調査資料<sup>14</sup>によって、貧困の原因を下記にまとめる。

1. 城鎮から離れ、情報不通、外部社会との交流が殆ど少なく、農業技術、家庭を営む情報を即時に入手できず、それに交通不便で、主に田舎土道路で、大型の車両が通りに難しく、農副産品の流通に影響を与えている(交通・情報による農産物の流通難)
2. 自然環境に恵まれていないのである。殆どの村は、山の奥に居住し、土地が貧しく、旱魃、雹外、大風、霜害等に頻繁に見舞われ、水源が無く、生活用水が非常に困難である。その中の一部分の村は石炭採掘による建屋亀裂、水道管漏れ、土地崩れという事態が頻繁に発生している。
3. 農業基礎施設が非常に粗末、産業構造が単純で、生産経営ルートが狭く、収入ルートが少ない。大部部分の農家は伝統的な農業及び家庭養殖を主に、第二産業と第三



産業が少ないにもかかわらず、規模にならなくて商品率が低いため、市場競争力欠乏、農民科学技術意識が薄く、自分の家庭を豊かにするアディアを見つけることができないのである。

4. 農民思想が古く保守、現状に満足、新たな思想を受けにくい。科学技術を利用する意識及び能力が制限され、生産技術遅れ、規模生産性低下、教育レベルが低く、高校生が 15% 中学生が 40% 小学生が 25% 文盲が 20%。

5. 村に残されたのは老人、病人、障害者及び子供が主で、労働力の殆どは出稼ぎにでている。

6. 村が小さく、人が少ないため、政府は農業、林業、水利、生態環境、道路、エネルギー、教育、衛生に関する基礎施設に対する投資が少ない。基礎施設の不整備、科学技術の立ち遅れ、条件施設粗末、教師欠乏、生産資金欠乏。政府が提供する就職チャンスが少なく、扶助、社会保障医療衛生システムが整備されてないのである。

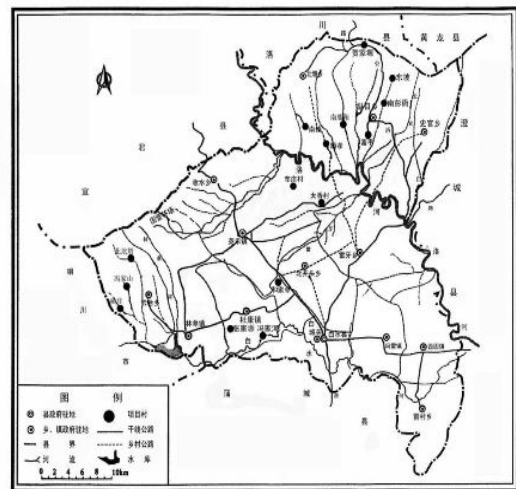
7. 潜在能力の欠如による様々な貧困（愚かによる貧困、病気による貧困、災難による貧困、進学による貧困、農民精神荒廃による貧困）は悪循環になっている。

白水县政府は現在、下記のいくつかの面から、貧困の解消に努めている。

- ①農業総合開発
- ②重点村を決め、全面的に推進
- ③移民開発
- ④資金貸付貸し入れ
- ⑤世界銀行社区主導発展実験プロジェクト

下記は世界銀行援助プロジェクトの地図である。●印は、2006 年から世界銀行の投資村の地域である。プロジェクト総投資

は 1200 万元である。县政府の話によると実験村の選定理由は、貧困状況+貧困村が集中しているところである。プロジェクトを通じては村のインフラストラクチャを整備した。これまでの開発援助から見るとこれまでの対策が主に物質貧困に対するのである。農民自身の原因による貧困に対する対策が殆ど見られないのが現状である。



白水县世行项目试点村位置示意图

センは、貧困を所得だけで焦点をおいて分析することには批判的であり、基本的なケイパビリティが与えられていない状況として貧困を見ようとする。なぜならば、個人個人の違い、生活環境の違い、社会状態の違い、消費慣習の違いなどによって、所得を生きるための能力に交換する度合いに差が出てしまうからである。センは「財の特性を機能の実現へと移す変換は、個人的・社会的な様々な要因に依存するとする「sen1985:邦訳」。

根本的には貧困者に貧困脱出させるために、貧困者自身のことを更に分析する必要がある。

上記の現在の白水县政府が取り組んでいる貧困対策から見ると殆どハードの整備に力を入れていることが心に伝わってきたが、その対策をみるとどういう風に農民自身の潜在能力を引き出せる言う対策案は、殆ど

見られないのに注目すべきではないか。ハードの整備に伴って、ソフトの整備、いわば、主体としての貧困者の整備が必要になってきているのではないか。祖先が残された財産はいつかなくなるかもしれない、どういう風に維持するか、かつ改善していくのか？貧困者の一人一人の力がないと永久を解決することが困難であることが予測できる。

移民政策を見てみよう。貧困者自身のことを無視して、移住するだけで、根本的には貧困の問題を解決するのであろうか？移住後の農民達は市場経済の中で、生き残れるのであろうか？非常に懸念している。もちろん、移住開発政策に完全に批判ではなく、貧困者の多様性を十分に配慮した上で、貧困階層によって、モデルを作り上げ、実行したほうがよりよい結果を出せるのではないか？なぜならば、移住後の生活は、その人の潜在能力の発揮によるものであって、潜在能力の幅によって人々の生活を左右される。

ミクロの観点から、各村の貧困の原因の共通点、各村の特殊性を見出し、移住後、自立的に生き残れる階層、現地で自立的に生き残れる階層、自立的に生き残れない階層（個人的欠陥による貧困者、単身老人）をあらかじめ分類して適切な対策方法を取ったほうが良策ではないかと考える。

その理由は、第一に、貧困状況に置かれている人々は現在の所得で移住するのが困難である。2010年、2006年にも、調査した村一王溝村を再調査したが、政府の支援を頂いても依然移住できなかった農家が相当あったことが分かった。調査に行く前に、もしかして全員移住しただろうと思って、移住後の追跡を追って、現状を調べて見たかったが、実際は様々な理由で移住でき

なかったのが現状である。10軒ぐらい、インタビューしたが、その理由を下記にまとめる。

- ①子供は都会へ出稼ぎに行っているが、あまり仕送りにしてくれないので建築費が高く無理である。
- ②移住しようと思って、ずっとお金を貯めてきたが、まだ、無理である。
- ③ここはいいところであるが、ただ、水がないので、もし、水の問題を解決することができれば、移住する必要がない。畑に近いから便利である。移住したくない。
- ④お金を貯めて移住するより、畑に投資したほうが良いような気がする。
- ⑤ここから下まで移住してもあまり現状を改善することはできない。

第二に、移住という政策が農民生活環境の改善における役割を無視することが出来ないが、自立的に市場経済の中では生き残れるかどうか懸念している。「わが国の東西部地域の最大の差は経済の発展レベルではなく、人の思想観念である。こういう思想観念が経済発展の束縛の根本的な原因である。実は、西部の沢山の地域では、自然資源、国家政策等にかなり恵まれているが、立ち遅れる状況が改善されなかった。その理由が考え方である<sup>15</sup>。」

「貧困は怖くないが、怖いのは貧困者自身の思想及び精神の崩壊である。貧困の原因が一般的なものではなく、人間低下の思想観念素質である<sup>16</sup>。」

第三に、人的資源欠如の村は、土地を離れて生活するのが非常に困難である。貧困は、経済の階級構造の中で、その人が占める位置や其の経済の生産様式に依存する。ある人の飢餓を回避する能力は、その人の所有物及びその人が直面している交換権原



写像<sup>17</sup>に依存して決まる<sup>18</sup>。ある人が所有している財の組み合わせ（労働力を含む）を所与とすれば、その人の交換権限を決める要因は次のようなものがある。

- ①雇用先が見つかるか見つかるならば、雇用期間と賃金はどれぐらいか。
- ②労働力以外の資産を売ってどれぐらいお金を稼げるか、ほしい物を買う費用はどれぐらいか。
- ③自ら労働力と購入、管理可能な資源（ないし資源サービス）を用いて生産できるものはなにか。
- ④生産に用いる購入資源（ないし資源サービス）費用と販売可能な生産物からの収入。
- ⑤受領資格のある社会保障給付と支払わねばならない税金など<sup>19</sup>。

第四に、近年の調査の中では、怠け者がよく見られるが、近年の貧困にかかわる研究の結論の中では殆ど見られないことは興味深い。「怠け者」による貧困は移住で解決することができないのである。西欧の貧困研究において、貧困は「怠惰」や「浮浪」といった概念と結び付けられる形で論じられてきた。<sup>20</sup>

貧困問題の解決は貧困者自身の潜在能力の発揮による以外ないのではないかと思われる。

#### 1. 王溝村の調査結果

2006年8月王溝村の34世帯の農家に全数聞き取り調査を行い、近代化していく過程で王溝村の現状及び変化の様子を究明したいと思った。王溝村は近代化の中で村人の生活状況の面だけでなく、意識領域にも激しい変化をもたらしたのである。土地は農民の命であると昔からよく言われているが、王溝村の半分以上の村人は土地に自信を失っているのである。王溝村の調査現状から

見れば、王溝村の一番大きな問題は貧困問題と格差問題である。貧困問題と格差問題に関しては、教育欠如或いは意識の問題による貧困が顕著である。市場原理からいうと能力のある人は豊かになり、能力のない人は貧しくなるのが普通であるが、こういう能力はどこから来たのだろうか？まずは基礎教育、技能教育、意識教育が挙げられる。

王溝村の調査結果を通じて、世帯あたりの平均教育レベルと一人当たりの年間純収入の相関関係 $R=0.69$ 、世帯あたりの平均教育レベルと一人当たりの年間現金収入の相関関係 $R=0.71$ 、世帯あたりの平均教育レベルとムーあたりの収穫量の相関関係 $R=0.56$ であるという結果が得られた。<sup>21</sup>

2006年から2010年までの長期の中国陝西省白水県でのフィールドワークを通じて、中国農村僻地における貧困の特徴として次の6点を挙げる事ができる<sup>22</sup>

- ①外部との交流の少ない僻地における人々の精神荒廃。
- ②人的資源の欠如による諸問題。
- ③高齢化による諸問題。
- ④個人的欠陥による諸問題。
- ⑤リーダーシップ、チームワークの欠如による諸問題。
- ⑥村の公共施設の不整備による諸問題。
- ⑦上記の要因による生産性の低下。

#### 2. 李家源のこれまでの実績

李家源村では、すでに現地の資源を利用して豊かになっている人々が存在している。豊かになっている人々の状況を分析してみると李家源村の貧困の原因も再び証明されるのである。

上記の分析から見ると移民という政策は

李家源村の貧困問題の解消に対して効果が見られない。李家源村では本当に発展の可能性がないのか、分析してみたい。

われわれが直面する大きな問題は、「貧困層の持つ資源が活用されない現実」である。貧困層が資源を持っていても活用されにくい背景には少なくとも二つの直接的な理由があると考えられる。第一に、「資源」の存在自体が認識されない。第二に、潜在している「資源」を活用するアイデアがない。

「すでにある資源」を可視化して活用するために貧困層の持つ資源を、貧困でない人々の活動と「結びつける（結合する）」ことであった。様々な学問領域が対話する過程で、貧困層の持つ資源と貧困でない人々の活動との間の、新しい「結合」の姿が見えてくることになった<sup>23</sup>。

中国では山の近くにいる人々が、山で、生きる、水の近くにいる人々が水で、生きる昔から言い方がある。自分にはなにかあるか、それをきっかけで豊かになれるか考える必要がある。閉じ込められた李家源村には自分の一品を作り上げたときに、貧困脱出の光が見える。李家源村には、豊かな自然資源を持っているにもかかわらず、

有能な幹部チームも持っている。

1. 李家源村の自然資源

①地理資源：土壌、気候、地形、水、林檎、牧畜

(1) 優位性のある生態環境及び林檎

- a. 気候優勢：李家源は渭北高原区、温帯季節風半乾燥気候に属している。平均温度：10.3～10.6℃ 無霜期：194～198日。
- b. 地理優勢：西北黄土高原は林檎発展の最適な地域である。
- c. 耕地、土壌優勢：土壌調査資料によると白水県では林檎の発展潜在能力に恵まれていることである。<sup>24</sup>
- d. 地形優勢及び牧畜業：草地、坂草地も多く、農産作物の種類も多い。そのため、牧畜業の発展に適している。

李家源村の豊かな自然環境をうまく利用していけば、豊かになる可能性が十分にある。果樹園や家畜で豊かになった農家が少なくないのが現状である。

表 3-5 白水県の生態環境及び林檎の最適生態環境比較

	緯度	平均温度	降水量	無霜期
林檎の最適な生態環境	32～42 度	8～14 度	500mm 以上	170 日以上
白水県の生態環境	35～35 度	11.4 度	570～590 間	207 日

Ⅲ. 結論

開発型援助の成果を満たすには①貧困人口相対的に集中②貧困人口の自立的な発展能力に依存するという二つの条件が必要である。現在の農村人口は大部分、この二つの条件には達していない。どんな援助政策でも、農民たちに自立的に積極的に貧困を脱出する体制を作るものが評価されるべき

だが、今までの貧困開発理論及び実施プロセスを分析してみると、貧困対策は貧困者自身の精神素質向上による経済成長及び経済発展における役割を無視してきたことが明らかである。貧困対策にしても、開発援助にしても、ある程度にもっとも基本的な事実を背いている。人間自身が生産力の決定的な要素で、経済発展及び経済の成長が

主に人間自身の素質の向上によるものである。

長期の調査の結果を通じて、教育レベルが高ければ高いほど所得が高くなる傾向があることと、農民の意識や及び考え方によって収入が変わることが明らかである。同じ自然環境の中で、年齢や個人の体の状況等の理由以外には、貧富の差が深刻である理由が主体的な理由ほかない。同じ村の中では、うまく家庭を営む農家がよく見かける。人間素質向上による貧困脱出可能になることが調査結果で分かる。

#### 脚注

- 1 中国内陸地域、特に少数民族地区、中山間地域等
- 2 党的十七届三中全会中共中央关于推进农村改革发展若干重大问题的决定学习辅导「m」北京:学习出版社 2008p188-189
- 3 王鵬.重庆市新型农业科技推广服务体系构建研究「D」.重庆大学硕士论文.2009.p36-37
- 4刘学荣.基层农技推广体系的改革与发展浅议「J」.甘肃农业、2009(12)
- 5 王慧军.依靠管理创新 深化我国农业推广体系的改革「J」.农业科技管理 2001、(3)
- 6 この「資源」は主に天然資源・人的資本・インフラストラクチャ・知識資本・制度・人間の創造性等の総合的潜在能力を指している。
- 7 下村恭民+小林誉明編著 2009年貧困問題とは何であるか」佐藤仁の序章 貧しい人々を持っているか：勁草書房「を参照。
- 8 ICCS 電子ジャーナル 2010 李小春
- 9 自然環境、社会環境、歴史的要因、教育欠如、不平等などという様々の要因による精神的欠乏
- 10 「白水県志」1989 白水県志編集委員会、西安地図出版社 p 66 筆者翻訳
- 11 陝西日報发展绿色工业着力打造陕西特色能源循环经济示范县 2009年9月29日专版
- 12 中共白水県委員宣传部李小均の口述

- 13 2010年3月7日白水県第十六回人民代表大会第四回會議白水県人民政府県長の政府工作報告に参照
- 14 白水县农业综(扶贫)开发办第6期 2009年4月关于白水移民扶贫工作的调查与思考
- 15 梁小民『小民談市場』[m]広州：広東経済出版社 2002p74-75
- 16 秦其文『財貿研究』2008年2月「农民思想道德素质与农户家庭脱贫的关系研究」
- 17 交換写像とは所有する財の組み合わせ一つ一つに対して交換権原の集合を関連付けるものである。
- 18 セン(黒崎卓、山崎幸治訳)『貧困と飢饉』p59-13 岩波書店 2000年
- 19 セン(黒崎卓、山崎幸治訳)『貧困と飢饉』p52
- 20 Daris,s,(1980)「The concept of poverty in the Encyclopedia Britannica from 1810 to1975」Labor History ,Vol,21,NO,1:91-101
- 21 中国農村社会の変容.李小春修士論文 2007に参照
- 22 小春 2010年 ICCS 現代中国学電子ジャーナルに掲載された「中国僻地における貧困問題—李家源貧困原因分析」
- 23 下村恭民+小林誉明『貧困問題とは何であるか』2009,p272
- 24 安助『白水発展戦略』西安雄風広告公司製作 1997

#### 参考文献

- [1] 王文亮『九億農民の福祉』中国書店、2004年。
- [2] 巖善平『農民国家の課題』名古屋大学出版会、2002年。
- [3] 申欣・夏敏轍(西南财经大学 610074)甘肃农业「论政府在农业保险中的作用」,2006年第6期。
- [4] 谢子平 宋洪远「农村贫困特征,类型及其形

成机理-山西两县两村 100 个农户的调查」  
红期文稿, 2005 年第 21 期。

- [5] 曹子堅 熊慶国『2005 年中国經濟年報』  
蘭州大学出版社、日本經濟新聞社, 2005。
- [6] 高橋五郎『国際社会調査』農林統計協会,  
2000 年。
- [7] 張玉林『轉換期の中国国家和農民』農林統  
計協会, 2001 年。
- [8] マイケル・P・トダロ(岡田靖夫監訳 ODCI  
開発經濟研究会訳)国際協力出版会『M・トダ  
ロの開発經濟学』
- [9] 中兼和津次『改革以後の中国農村社会と經  
濟(日中共同調査による実態分析)』筑波書房,  
1997 年。
- [10] 中兼和津次『現代中国經濟シリーズ-經  
濟發展と体制移行』名古屋大学出版社, 2002。
- [11] 費孝通『志在富民 中国鄉村考察報告』  
上海人民出版社, 2004 年。
- [12] T.H.マーシャル(岡田藤太郎訳)『福祉国  
家・福祉社会の基準理論—福祉に対する権利』  
相川書店, 1989。
- [13] 馬晃晟(甘肃临夏州州委党校 731100)甘  
肃农业「试论农村合作经济组织与贫困地区农  
民增收」, 2006 年第 6 期。
- [14] 道端良秀『仏教と儒教倫理—中国仏教に  
おける孝の問題—』平楽寺書店, 1970 年。
- [15] 山崎幸治・絵所秀紀『アマルティア・セ  
ンの世界』晃洋書房, 2004 年。
- [16] 乐君杰『中国農村労働市場的經濟学分析』  
浙江大学出版社, 2006 年。
- [17] 李小云,左停,叶敬忠『中国农村情况报告  
2003-2004Status of Rural China』社会科学文献  
出版社, 2004 年。
- [18] 李軍『中国城市反貧困論綱』經濟科学出  
版社, 2004 年。
- [19] 李軍「白水県進行農村技術培訓」胃南報,  
1992 年 5 月 5 月 21 日。
- [20] 李軍「白水—一個山区貧困県致富的決策」  
科技日報, 1993 年 10 月 7 日。

- [21] 李傑「大骨病—調査報告書」白水件防疫  
站資料, 1970 年。
- [22] 林燕平『中国の地域間所得格差』日本  
經濟評論社, 2001 年。
- [23] 劉薰詞『中国“三農分析”問題分析』湖  
南人民出版社, 2005 年。
- [24] Sen, A., *On Economic Inequality*, Oxford  
University Press, 1973. 鈴木幸太郎・須賀晃  
訳『不平等の經濟学 - 潜在能力と自由』東洋  
經濟新報社, 2002 年。
- [25] Sen, A., *Starvation and Exchange  
Entitlements: A General Approach and Its  
Application to the Great Bengal Famine.*,  
*Cambridge Journal of Economics*, 1, 1977.
- [26] Sen, A., *Collective Choice and Social  
Welfare*, San Francisco:Holden-Day Republished  
Amsterdam: North-Holland, 1979. 志田基与師  
監訳『集合的選択と社会的厚生』勁草書房,  
2000 年。
- [27] Sen, A., *Poverty and Famines: An Essay on  
Entitlement and Deprivation*, Clarendon Press,  
Oxford, 1981. 黒崎 卓・山崎幸治訳『貧困  
と飢饉』岩波書店, 2000 年。
- [28] Sen, A., *Choice, Welfare and  
Measurement*, Blackwell, Oxford, and MIT  
Cambridge, Mass. 1982. 大庭健・川本隆史訳  
『合理的な愚か者-經濟学=倫理学的探求』勁  
草書房, 1989 年
- [29] Sen, A., *Commodities and Capabilities*,  
North-Holland, Amsterdam. 1985. 鈴木幸太郎  
訳『福祉の經濟学-財と潜在能力』岩波書店,  
1998 年。
- [30] Sen, A., *Inequality Reexamined*, Oxford  
University Press, Oxford. 1992.  
池本幸生・野上裕生・佐藤仁訳『不平等の再  
検討』岩波書店, 1999 年。
- [31] Sen, A., *Development as Freedom*,  
Oxford: Oxford University Press, 1999. 石塚雅彦  
訳『自由と經濟開発』岩波書店, 2000 年。

- [32] 月刊 『中国情勢』2006年2月号・No.62 (株)中国通信社「当面農業と農村工作のいくつかの問題について」温家宝, 2005年12月29日
- [33] 月刊 『中国情勢』2006年4月号・No.64 (株)中国通信社「第10期全人代第4回会議特集政府活動報告」, 2006年3月5日第10期全人代第4回会議にて
- [34] 白水県志編集委員会『白水県志』西安地図出版社, 1989年。
- [35] 白水県統計局「国民経済基本統計資料」, 1995-2001年。
- [36] 白水県統計局「国民経済基本統計資料」, 2008年。
- [37] 白水県統計局「国民経済基本統計資料」, 2009年。
- [38] 佐藤元彦『『脱出貧困のための国際開発論』, 2002年
- [39] 高橋五郎『国際社会調査』農林統計協会, 2007年
- [40] 大塚啓二郎+黒崎卓『教育と経済発展-途上国における貧困削減にむけて』, 2003年
- [41] 刘易斯(梁小民)『经济增长理论』上海: 上海三連书店, 上海人民出版社, 1994年
- [42] 下村恭民+小林誉明『貧困問題とは何であるか』佐藤仁の叙章「貧しい人々はなにを持っているか」, 2009年
- [43] 河上『貧乏物語』大内兵衛「現代日本思想大系河上」筑摩書房、なお岩波文庫出版, 1965年
- [44] 白水縣綜(扶貧)開發辦第6期, 2009年4月关于白水移民工作的调查与思考
- [45] 梁小民『小民談市場』[m] 広州: 広東經濟出版社, 2002 p 74-75
- [46] 秦其文「農民思想道德素質与農戶家庭脱貧的關係研究」『財貿研究』, 2008年2月

参考ホームページ

- [1] 財団法人 自治体国際協会 CLAIR 刊行

- 物 海外事務所特集 北京事務所、特集：「改革加速する中国」特集3：「中国都市部の年金改革」  
<http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/sp-jimu/170-3/index.htm#1>
- [2] 中国人民共和国国家統計局  
<http://www.stats.gov.cn/>
- [3] 中国人民共和国労働と社会保障部  
<http://www.molss.gov.cn./column/index-p5.htm>
- [3] 中国人民共和国民政部  
<http://www.mca.gov.cn/artical/content/WGJ-TJSJ/200572093946.html>
- [4] 中国人民共和国衛生部  
<http://www.moh.gov.cn./news/sub-index.aspx?tp-class=c3>
- [5] 中国人口信息网  
<http://www.cpirc.orp.cn/tjsj/tjsj-cy-detail.asp?id=3885>
- [6] 大紀元 何清漣 『養老保險危機迫近中国』・「銀髮産業」原是夢  
<http://www.epchtimes.com/b5/5/6/27/n967490.htm>
- [7] 免費論文網 哲/社/史学『我国基本養老保險制度公平問題探析』  
<http://www.mflw.com/show.aspx?=4470&cid=11>
- [8] 博客搜索引擎(エンジン) 論文坊社会学  
<http://www.yesize.com/Get/L19/index.asp>
- [9] 社会保険研究網  
<http://www.isis.net.cn/index.htm>
- [10] 中国保險研究所 研究動態(態)「農村社会研究」  
<http://www.isis.net.cn/text/056620/ncylyj.htm>
- [11] 新華網 中国農村扶貧開發  
[http://news.xinhuanet.com/ziliao/2003-01/20/content\\_697877.htm](http://news.xinhuanet.com/ziliao/2003-01/20/content_697877.htm)
- [12] 中国農村扶國務院扶貧辦 世界銀行 聯合國開發計畫署聯合調查報告  
<http://www.cnsp.org.cn/ztbd/fpzlyt/cnncfp0.htm>
- [13] 中国三農問題研究中心

- 
- <http://www.snzg.com.cn/>
- [14] 中国三農網 <http://www.nnn.net.cn/>
- [15] 中国三農問題報告  
<http://www.bookschina.com/618456/>
- [16] 第2界中国農村發展論壇  
<http://news.21cn.com/zhuanti/dushi/sannonglt/>
- [17] 中国三農信息網  
<http://210.72.33.112/njlt/default.htm>
- [18] 中国農村教育網 <http://www.chinacjy.cn/>
- [19] 農村教育現狀中国鄉村網  
[http://www.china-village.org/bbs/showtopic.asp?TOPIC\\_ID=3465&Forum\\_ID=2](http://www.china-village.org/bbs/showtopic.asp?TOPIC_ID=3465&Forum_ID=2)
- [20] 中国扶貧開發白皮書西農業信息網  
[http://jx.hljagri.gov.cn/Article\\_Show.asp?ArticleID=238](http://jx.hljagri.gov.cn/Article_Show.asp?ArticleID=238)
- [21] 中国貧困与反貧困形勢分析  
[http://www.chinapop.gov.cn/rkzh/rk/rkysh/t20040528\\_13255.htm](http://www.chinapop.gov.cn/rkzh/rk/rkysh/t20040528_13255.htm)
- [22] 中国新農村促進會 <http://www.pcdur.org.cn/>